

## 東江漁協婦人部の歩みと役割

— 潮干狩り観光を盛り上げて、地域とともに発展を —

東江漁業協同組合婦人部  
部長 松本千夜子

### 1 地域の概況

私達の江田島町は、広島湾に浮かぶ島・江田島にある。島の北側は広島市、東側は呉市と相対し、南側は能美島と連なっている。町の人口は1万3千人余り、カキ等の特産物と数々の史跡が知られており、年間約10万人が訪れる歴史と自然の町である。そして平成14年10月には、江田島と能美島にある4つの町が合併し、江田島市として生まれ変わる。

### 2 漁業の概要

私達の所属する東江漁協は、江田島の東の玄関口である小用地区に位置し、正組合員46名、准組合員73名が所属している。主な漁業種類はカキ養殖業、イワシ船びき網、小型底びき網、刺し網、釣り等が営まれている。

### 3 婦人部の組織と運営

東江漁協婦人部は昭和34年6月に結成され、43年目を迎える。現在の部員数は81名、平均年齢は58歳と、やや高齢になってきている。部員のうち約7割が漁家以外の女性なのが特徴であるが、夫はサラリーマンでも、本人はカキの打ち子をしていたり親が漁師であったりなど、皆、地域の漁業とかかわりを持っている。

役員は部長1名、副部長2名、会計2名のほか、6つの班に2人ずつ、12人の班長を置いており、総会は2年毎の4月上旬に開催している。

主要な活動としては、まず結成時からの地道な取組みである貯蓄推進活動、海浜清掃や無公害石鹸の普及によって生活の場である海を守る活動、そして葬儀の手伝いや祭壇の貸し出し、納骨堂の管理を行う葬祭事への支援活動、地域主催で行われる3つのイベントに参加して地元の水産物をPRする地域活性化の活動、そして、平成5年から漁協の委託を受けて取り組んでいるアサリ潮干狩り漁場の管理活動の5つである。

### 4 研究・実践活動課題選定の理由

結成から今日まで取り組んできたいずれの活動も、地域に対して相応の役割を果たしてきたと考えている。そんな中で潮干狩り漁場の管理活動だけは、自然環境に左右されるせいか、比較的安定している他の活動と違って、どうしても年によって成績が不安定になってしまう。平成13年度は、「大きなアサリがたくさん掘れて、長い間楽しめる潮干狩り漁場」を目指して、私達の漁場を守っていく方法を再検討し、改善に取り組むこととした。

### 5 研究・実践活動状況及び効果

私達のアサリ潮干狩り漁場は、平成4年度に漁協単独の事業として小用地区に造成された。面積は2,900㎡、約900坪足らずと、あまり広くはない。

平成5年のオープンにあわせて、「あさりコロコロ」と銘打ったイベントを開催したところ、約600人ももの行楽客で賑わった。こうして、小用のアサリの評判が根付いたことか

ら、多くの行楽客が訪れるようになり、その実績が評価された結果、町の事業によって漁場のそばにトイレを設置してもらうことができ、大変便利になった。

漁場管理の主な業務内容は、掘ったアサリの計量と代金の受け取り、及び漁場とその周辺の清掃等で、潮干狩り観光の裏方的なものである。毎日2人の部員がペアになって業務にあたっている。夏場の午後、炎天下での業務ではあるが、自分達の漁場を自分達で管理することに確かな手ごたえを感じており、自分を励ましながらがんばっている。

9年目となる今では、イベントに頼ることなく評判も定着しているが、一番の問題は、放流した後のアサリの成育である。成育は年毎に良かったり悪かったりで、過去には、放流した量の半分程度が漁場を開ける前に死んでしまったようなこともあった。その主な原因は、波によって漁場の砂が激しく移動するためではないかと考えられた。そこで私達は、もっと大きいアサリを蒔けば、丈夫でよく生き残り、収穫までの養成期間も短縮できるのではないかと考え、また漁場を開ける直前に放流すれば、大きいものからすぐに収穫できるのではないかと考え、13年度は特別に大きいアサリを注文し、開場の4日前に放流した。

また、できるだけ長い期間、潮干狩りを楽しんでもらうにはどうすれば良いかを考えた。行楽客の少ない平日には、商売でアサリを掘る人がよく来場してかなりの量を掘ってしまうので、短期間で取りすぎになっているのではないかと思われた。そこで13年度は、潮が良くても平日は潮干狩りを禁止することに決め、大潮に一番近い週末の金・土・日の3日間だけ、解禁することにした。

さらに13年度からは、お客さんの数を家族単位で記録し、それぞれの掘ったアサリの量も記録に残すことにした。アサリを掘った人数がわかれば、その時の収穫量が多いのか少ないのかを判断する手がかりになり、今後の対策に必ず役立つと思われる。

以上の取組みの結果、13年度の総収穫量は**9,939kg**で、昨年までと比べるとほぼ倍、オープン以来2番目の成績であった。収益の総額は**4,241,960円**、販売単価を50円上げてキロ400円としたため、過去最高額となった。この金額は、アサリ種苗代と人件費等で年間約100万円程度の潮干狩り運営費を賄ってあまりある、記録的な黒字である。

放流については、平成8年度までは記録に残っていないが、例年3t程度を放流してきている。放流量が多ければ収穫量も多いという訳ではなく、やはり放流方法の問題もあるものと思われた。

特注したアサリ種苗は期待どおり全体に大きく、すぐ収穫できそうな3cm以上のものも多かった。やはり大きい方が運搬や環境変化に強く、よく生き残ったのではないかと。

ここ数年は、8月に入ると収穫が減るため2ヶ月程度で潮干狩りを終了していた。それが13年度は、1家族平均で6~8kgもの収穫が安定して続いたため、9月末までの丸3ヶ月間、潮干狩りを続けることができた。これは、一潮あたりの開場日数を減らし、間隔をあけて掘るようにしたことで、大きい貝から収穫されて小さい貝が成長できたのが良かったのではないかと。また、漁期が1ヶ月伸びたために合計29日間開場でき、行楽客にも存分に楽しんでもらえたと思っている。年間の来場数は延べ1,397家族、この数字だけでも私達の活動が町おこしに一役買っていることが実感できた。

こういった状況で、平成13年度の潮干狩り事業は大成功と言って良いと思われる。この大成功の原因はといえば、なかなかこれと絞りきることはできないし、たまたまアサリにとって良い条件がそろっていただけかもしれない。しかしそれでも、私達の取り組みの

成果でもあることは間違いないと信じている。

## 6 波及効果

当初、婦人部の活性化のために委託された潮干狩り漁場の管理であるが、収益の半額が委託料として婦人部の会計に入り、今では婦人部の活動全般を支えている。そして残り半額は、漁協の指導事業収益として繰り入れられ、ささやかながら漁協経営に貢献している。また、皆が協力して漁場管理の業務にあたり、取り組みの成果をともに喜ぶことで、部員同士の横のつながりを培っている。そして全ての活動を通じて、婦人部の皆が集まって話し合い、助け合うことで、漁家と一般とを問わず、また老いも若きも一緒になって、地域全体のまとまりを維持する大事な役割を担っている。このように、私達婦人部の組織が発展していくことが、そのまま小用の潮干狩り観光を盛り上げることにつながり、ひいては地域全体の活性化にも貢献することができると考えている。

## 7 今後の課題や計画と問題点

潮干狩り漁場管理の試行錯誤は、これからもまだまだ続いていく。年々実績を積んでいくことにより、新たな問題点も見えてくると思われる。行楽客に喜んでもらえて収益が上がれば、さしあたっては成功といえよう。しかし、ただ毎年アサリを蒔いてそれをそのまま掘ってもらうだけの活動でなく、少しずつでもアサリが根付いていって、先々の収穫へとつながっていく漁場をつくるための活動こそが、本当の意味での漁場管理活動であると考えている。今後もより良い方法を模索しながら、活動を続けていきたい。

# 東江漁協婦人部の沿革

昭和34年6月：東江漁協婦人部結成

部員数70名（現在81名）、役員：部長1名、副部長2名、会計2名、班長12名（任期2年）

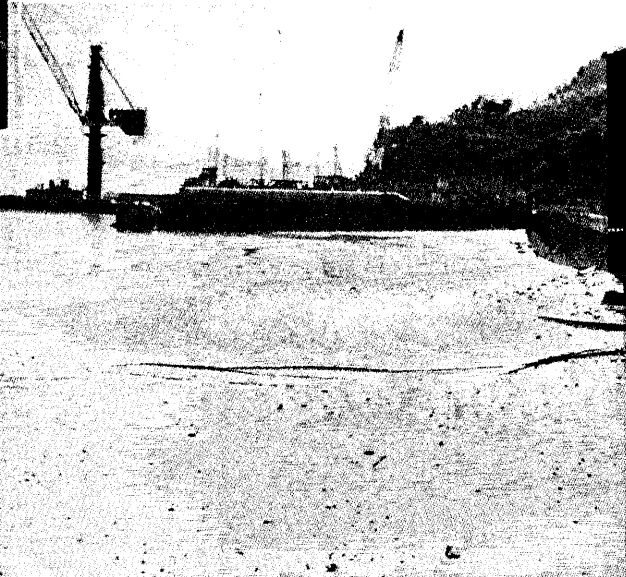
## 結成から今日までの活動状況

昭和34年度 婦人部結成	昭和47年度 結成から14年目	昭和48年度 結成から15年目	平成4年度 結成から34年目	平成5年度 結成から35年目	平成13年度 結成から43年目
貯蓄推進活動 「1日箱貯金」推進。催事に備える貯蓄から、先々の生活設計を目的とした貯蓄へ。自らの名義で口座を持つ等、婦人部員の意識改革にも貢献。	海を守る運動 海浜清掃の実施や、無公害洗剤の普及活動、公共下水道の視察等、生活の場である海の環境保護を目指す活動。	生活改善運動 虚礼廃止の取組みや、葬儀用祭壇の貸出し、葬祭の裏方手伝い等により、祭事にかかる負担を相互支援し、あわせて生活慣習の改善を目指す活動。	地域活性化運動 地域で行われる3つのイベントに参画し、名物料理（かき料理、鯛飯等）を提供・販売することで、近郊の住民との交流促進、地域活性化に貢献。	あさり漁場管理 組合からの委託を受けて、あさり潮干狩り漁場を管理。あさりの販売益で婦人部活動を全体的に推進し、行楽客誘致に貢献。	あさり潮干狩り漁場 管理方法の検討 長期間潮干狩りを楽しむよう、あさり種苗の放流方法や漁場の開場日数を検討し、改善策を実施。効果を確認するため、各種データの収集を開始。

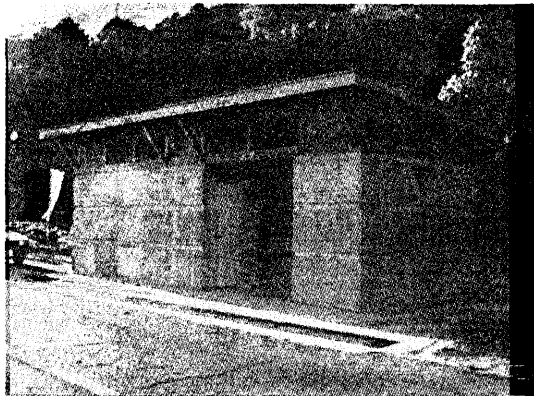
小用干潟の潮干狩り風景



小用の潮干狩り漁場

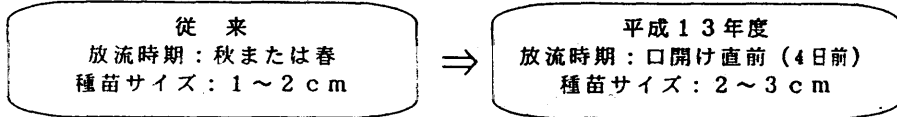


江田島町によって設置されたトイレ施設

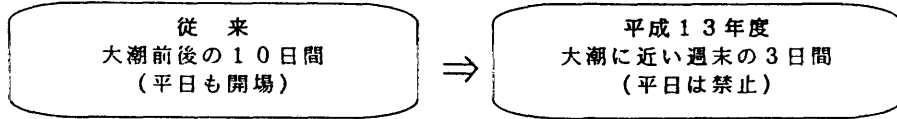


# ☹️ 潮干狩り漁場の問題点と対策 ☺️

- 1 自然に死んでしまうあさりを取獲につなげるには？  
→ あさり種苗の放流方法を見直そう！

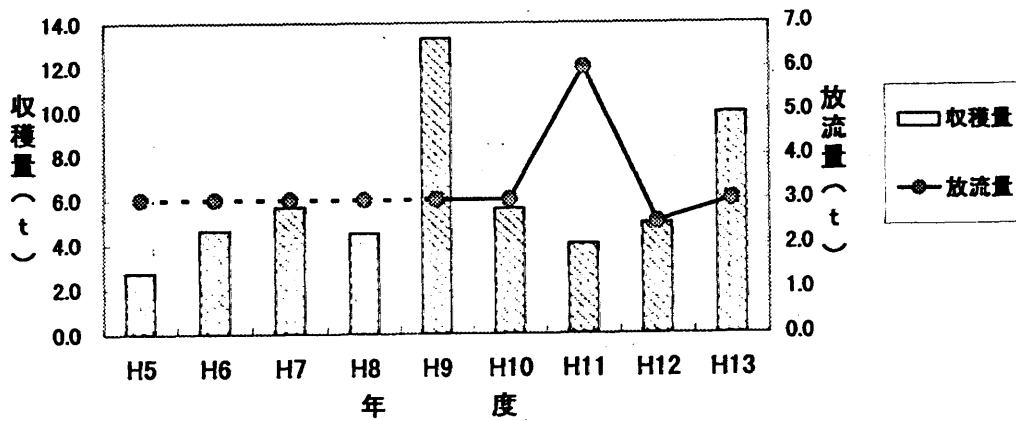


- 2 短期間に取りつくしてしまわないためには？  
→ 潮干狩り漁場の開場日を見直そう！

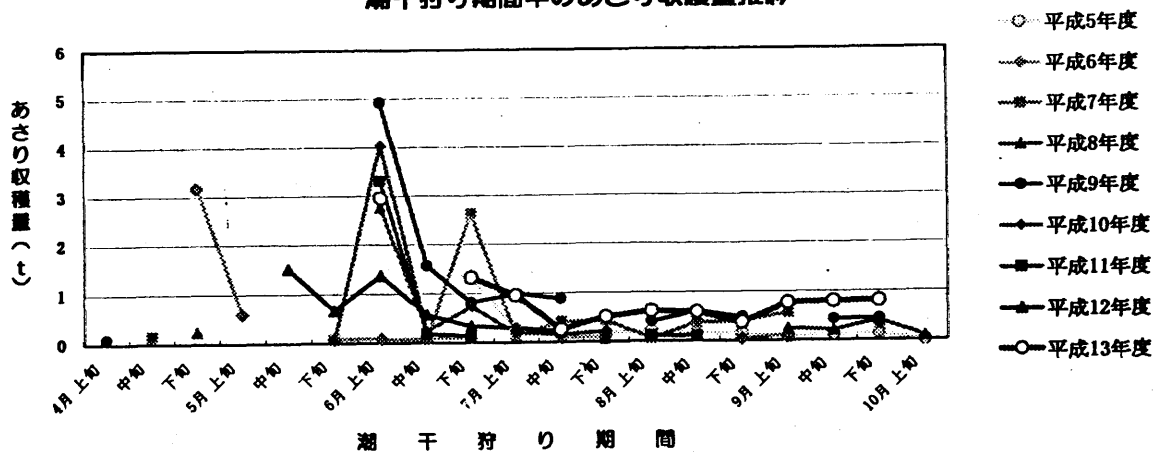


- 3 今後の発展のために…  
→ 入場家族数と家族毎の収穫量データを記録しよう！

**あさりの収穫量と放流量の推移**



**潮干狩り期間中のあさり収穫量推移**



# 東江漁業協同組合の所在地

